



Japan Project-Industry Council

国土造りプロジェクト構想

地方開発プロジェクト計画 5

～SDGs時代の新たな地方活性化に向けて～

【山陰ブロック】

豊かなスローライフを目指した地域づくり
～分散・連携による山陰地域総合開発計画～



2026年9月

JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
山陰ブロック総合開発ワーキンググループ

まえがき

わが国の国土の均衡ある発展を担った「国土総合開発計画」は、2005年に「国土形成計画」へと変更され、少子高齢化の成熟社会に向けた新たな内容へと転換を遂げた。同計画は8つの地域で国と都道府県が協働して「広域地方計画」が作成される二層構造が特徴である。但し、これまでの広域地方計画では、新たな発展構想が必要な地域が取り残されているものも見受けられる。

本提言は、そのような地域に焦点を当てた地域圏域計画を民間から提言するものである。

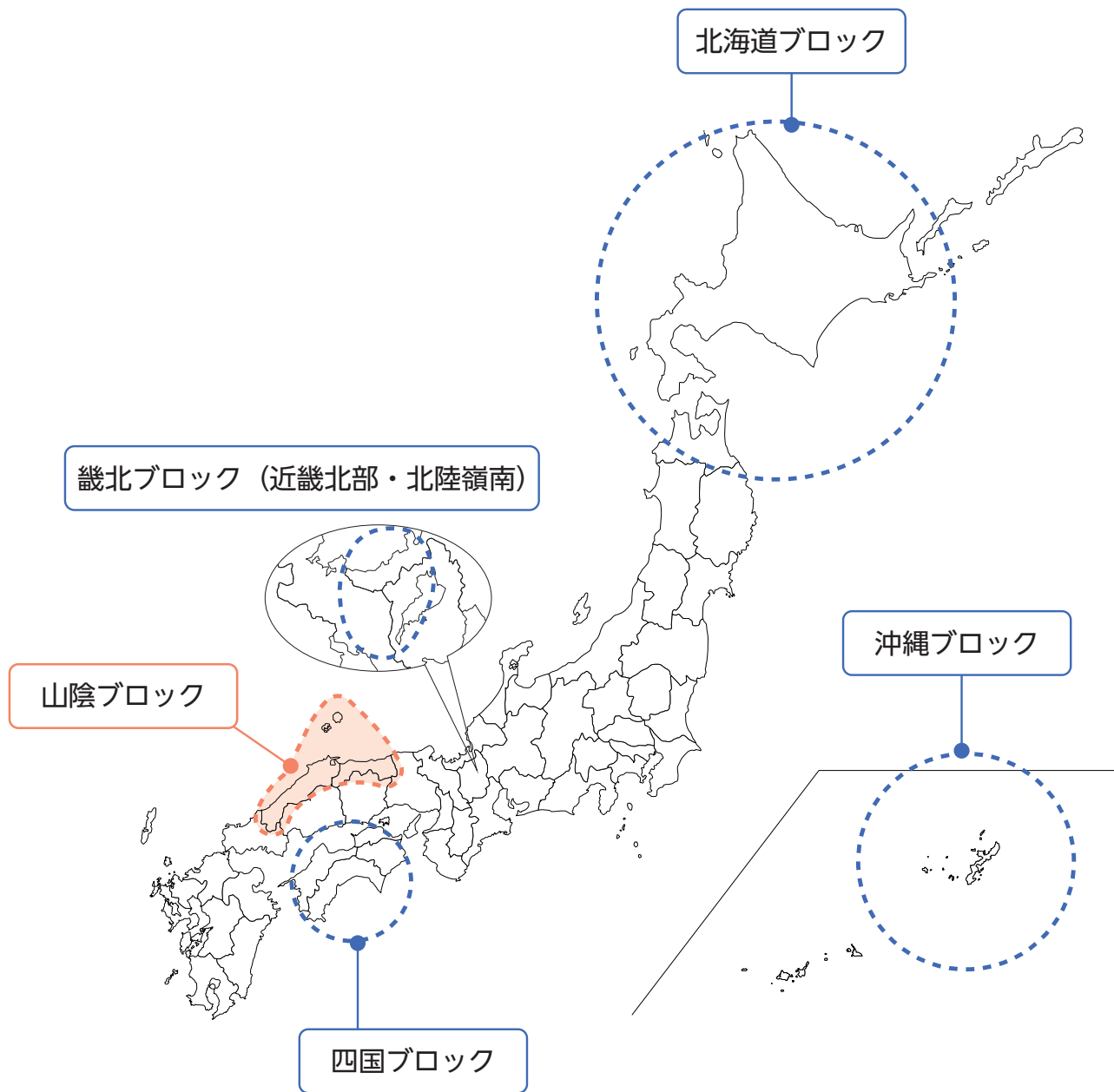
その第五弾として、日本の原点となる歴史・文化を有し、変化に富む魅力的な海岸線、美しく豊かな里山をもつ内陸部を持ちながら、これまであまり焦点が当たらなかった「山陰」を検討の対象とした。

大都市圏から遠く交通体系が未整備な結果、大規模開発が進まなかった反面、この地区には日本が誇る美しい街なみや神話時代からの固有の文化や精神性が色濃く残っている。効率性を重視した社会と異なる暮らしの豊かさが注目されるなか、これらの特性を活かした豊かなスローライフの形成を目指した地域づくりを構想したものである。私たちの構想が同じような状況に置かれている全国の地域圏のモデルになれば幸いである。

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC） 名誉顧問
東京都市大学 名誉総長
中村 英夫

国土造りプロジェクト構想

(地方開発プロジェクト計画)



目次

Contents

1. 提言の概要	1
2. 提言プロジェクト	
①文化や信仰によるスローライフな地域づくり ～出雲地域における展開～	21
②地域産品を活用したスローライフな地域づくり ～大山地域における展開～	31
③スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり ～温泉津における展開～	39
④山陰の魅力をじっくり楽しむ横断的な広域観光連携	51
⑤『中海・宍道湖・大山圏域』の拠点性及び 周辺地域との接続性強化	59
⑥円滑な移動を支える都市交通の再整備	69
⑦山陰地方の発展を支える広域幹線交通の強化	79
ワーキンググループメンバー.....	89

提言プロジェクト

1

Japan Project-Industry Council

提言の概要

豊かなスローライフを目指した地域づくり ～分散・連携による山陰地域総合開発計画～

JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会
山陰ブロック総合開発ワーキンググループ

I. はじめに

- 山陰地方*1)は神話の時代から江戸、明治の時代を経て、地域のそれぞれの地区が個性ある独自の文化と歴史を培ってきた。
- 大都市圏から遠く高速交通体系が未整備だったため工業などの大規模な開発がなされなかった。しかし逆に地域の自然や文化、歴史が保たれてきた。
- 生活の質が求められる時代に入り、この伝統的な文化、歴史、景観そして豊かな自然や落ち着いた暮らしが地域の大きな財産となり価値を増している。
- 大都市圏の効率本位の生活から離れ、個人の暮らしの豊かさを重視する新しい生き方:スローライフを展開できる大きなポテンシャルをもっている。
- 新しい時代の山陰ビジョンとして、穏やかな暮らしに加え、創造性や生き甲斐のある生活にも恵まれたスローライフの形成を、全国の先進モデルとして実現したい。

*1) 鳥取県・島根県を対象とする



Ⅱ. 山陰の現状

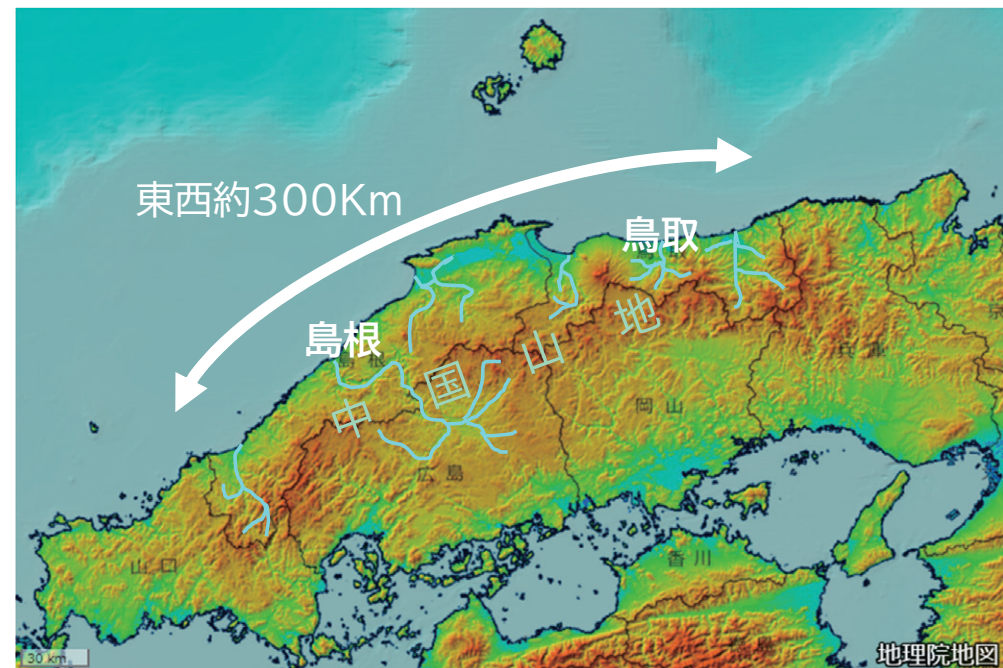
(1)地勢

- ・**面積:全国の2.7%**。鳥取県(3507km²、全国41位)、島根県(6708km²、全国19位)
- ・東西に約300kmと長く、**多様な文化や歴史を持つ多くの地区から成り立つ。**
- ・南に中国山地、平地が少ない。
- ・**変化に富む豊かな海岸線、水際線** (砂浜海岸、リアス式海岸、中海、宍道湖 等)
- ・冬は北西の季節風の影響で雪が多く、気候は厳しい。

都道府県別面積の順位

令和7年10月1日現在			
順位	都道府県コード	都道府県名	令和7年10月1日面積 (km ²)
		全 国	377,979.67
1	01	北海道	83,422.27
14	45	宮城県	* 7,734.16
15	43	熊本県	* 7,409.13
16	04	宮城県	* 7,282.34
17	33	岡山県	* 7,114.44
18	39	高知県	7,102.28
19	32	島根県	6,707.79
20	09	栃木県	6,408.09
21	10	群馬県	6,362.28
39	11	埼玉県	* 3,797.75
40	29	奈良県	3,690.94
41	31	鳥取県	3,507.05
42	41	佐賀県	2,440.64
43	14	神奈川県	2,416.55

(出典)国土地理院HPより～抜粋



Ⅱ. 山陰の現状

(2)人口

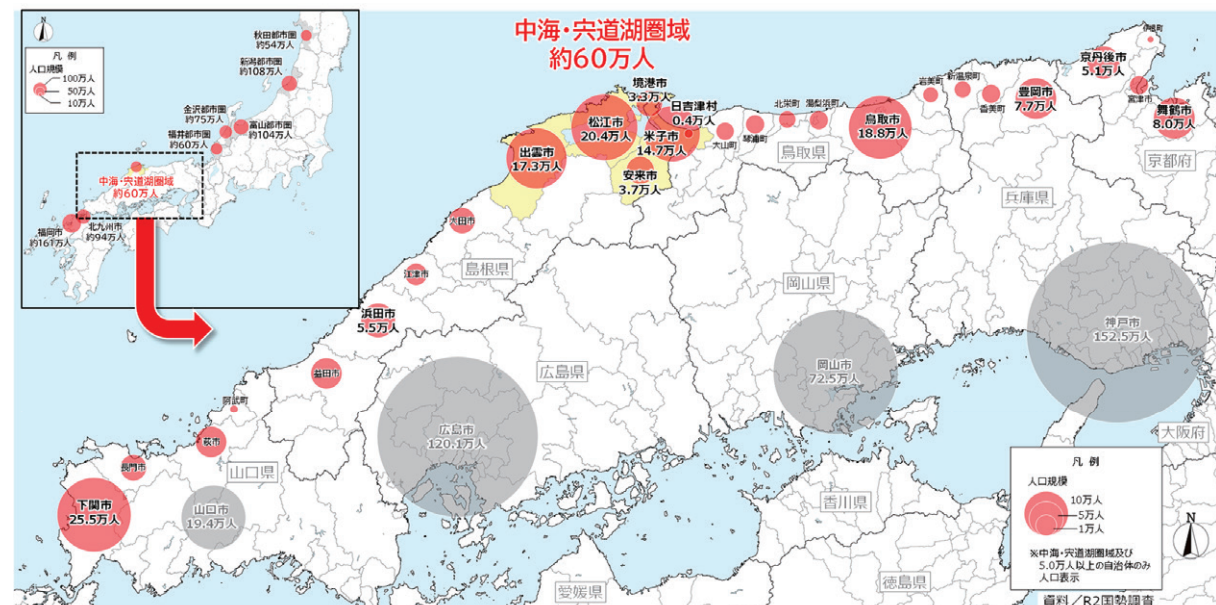
- ・鳥取県 52.3万人(全国最下位47位)・島根県:62.9万人(全国46位)、
合計:約115万人 (全国1%弱)
- ・人口減少: 鳥取県▼6,000人強/年、島根県▼7,000人強/年。**県外流出が1/4。**
- ・**多数の拠点が分布する分散型地域**であるが、鳥取・島根両県にまたがる**中海・宍道湖・大山圏域**が形成されている(人口:約60万人～地域人口の半分)。

都道府県別人口(2025国勢調査)

(千人)

	都道府県	総人口	全国比率
	全国	123,049	100.0%
1	東京都	14,246	11.6%
2	神奈川県	9,194	7.5%
41	佐賀県	781	0.6%
42	山梨県	780	0.6%
43	福井県	729	0.6%
44	徳島県	675	0.5%
45	高知県	643	0.5%
46	島根県	629	0.5%
47	鳥取県	523	0.4%

(出典)総務省統計局



II. 山陰の現状

(3) 経済規模及び産業構造

- ・**県内総生産** 鳥取県:1.9兆円(全国47位)、島根県:2.8兆円(全国45位)
合計: 4.7兆円 (全国の0.8%)。 ※1人あたり県民所得は、鳥取45位、島根24位
- ・農林水産業の比率が高い。
- ・製造業についても、小規模だがユニークで競争力のある企業が育っている。

都道府県別 県内総生産(2022年度)
(兆円)

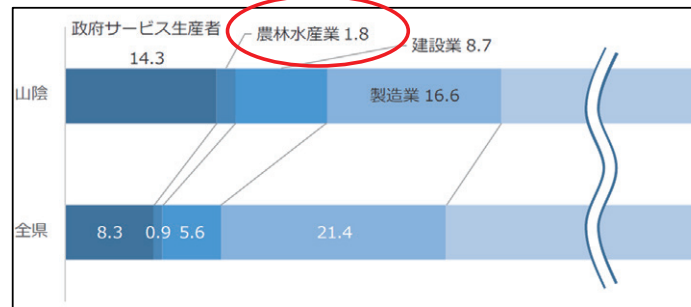
	都道府県	県内総生産 (名目)	全国比率
	全国	595.8	100.0%
1	東京都	120.2	20.2%
2	大阪府	43.1	7.2%
41	秋田県	3.6	0.6%
42	福井県	3.5	0.6%
43	徳島県	3.3	0.5%
44	佐賀県	3.1	0.5%
45	島根県	2.8	0.5%
46	高知県	2.4	0.4%
47	鳥取県	1.9	0.3%

(出典)内閣府「県民経済統計」

都道府県別 1人あたり県民所得
(2022年度)

	都道府県	1人あたり県民所得 (単位:千円)
1	東京都	6,037
2	愛知県	3,819
21	長野県	3,108
22	福井県	3,095
23	山口県	3,068
24	島根県	3,031
25	香川県	3,005
26	山形県	2,994
43	長崎県	2,570
44	岡山県	2,553
45	鳥取県	2,491
46	宮崎県	2,453
47	沖縄県	2,249

名目GDPの産業別構成比



(出典)山陰合同銀行資料より

地域の活力ある企業(例)

- ・日本セラミック(センサー大手)
- ・寿スピリッツ(菓子製造)
- ・いないホールディングス(食品・小売)
- ・山陰酸素工業(エネルギー)
- ・日新グループ(木材産業)
- ・島根富士通(製造業)、出雲村田製作所等 大手企業の子会社等

Ⅲ. 山陰の特長

(1) 自然・地形

- ・日本海沿いの海岸は、リアス式海岸に加え、小さな浜辺海岸が数多く点在し、魅力的な景観を形作る。砂丘も含め、山陰ジオパークを形成。
- ・地域全体にわたって、全国に知られる温泉も点在。
- ・中国山地はなだらかな山裾が広がる。大山や三瓶山は、登山、紅葉、スキーの拠点。
- ・過去に地震はあったものの、南海トラフ地震の影響は相対的に軽微。

島根半島の浜辺海岸(松江市北浦)



雄大な大山の景観



(出典)鳥取大山観光ガイドHP

Ⅲ. 山陰の特長

(2) 歴史

- ・「日本最古の地」(「古事記」「日本書紀」の神話の44%は山陰が舞台)。
鳥取:白兔神社、島根:出雲大社 等
- ・古代から中国大陆や朝鮮半島との交易が盛ん。
- ・戦国から江戸時代の最盛時、世界の銀の1/3を産出した石見銀山で栄える。
- ・日本海に面し、北前船の寄港地として栄える。(浜田／外ノ浦、温泉津 等)
- ・長い歴史を伝える寺社仏閣や街並みが地域の魅力を創り出している。

出雲大社



浜田 外ノ浦の景観



(出典)浜田市観光協会公式サイトより

Ⅲ. 山陰の特長

(3)文化・風土

- ・歴史に根付いた固有の文化・精神性を有する(神話、たたら製鉄等)。
古来から著名人によって文化が語られてきた(柿本人麻呂、ラフカディオ・ハーン等)。
- ・地域独自の陶芸、織物等が、人々の生活の中で、美しさを育んできた(多くの個性ある窯元、民藝運動等)。
- ・山陰独特の美しい街並み・景観(城郭、石州瓦等)が今も残る。

山陰各地に残る民藝



石州瓦の街並み(石見銀山大森地区)

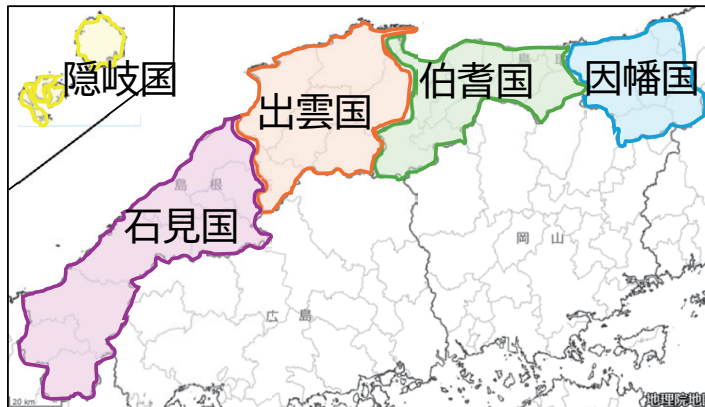


Ⅲ. 山陰の特長

(4) 地域の歴史的変遷

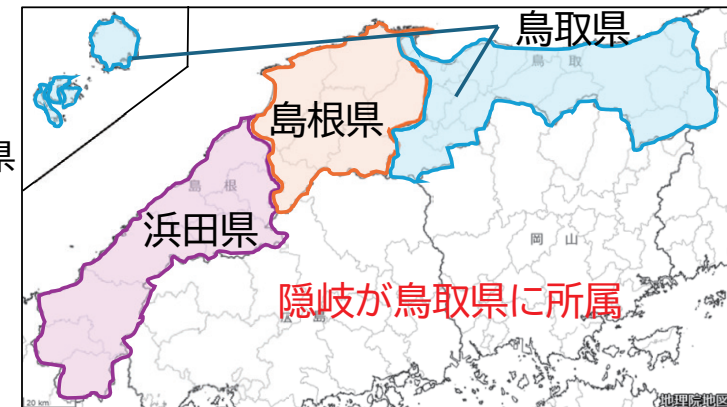
- ・江戸期の五国が、幾多の変遷を経て、明治14年に鳥取・島根の2県に。
- ・東西に長く、旧国の名残もあり、地域ごとに特有の文化や風土を有している。

江戸時代
(幕藩体制)



明治4～
(1871)

※廃藩置県



明治9～
(1876)



明治14～
(1881)

※現在に至る

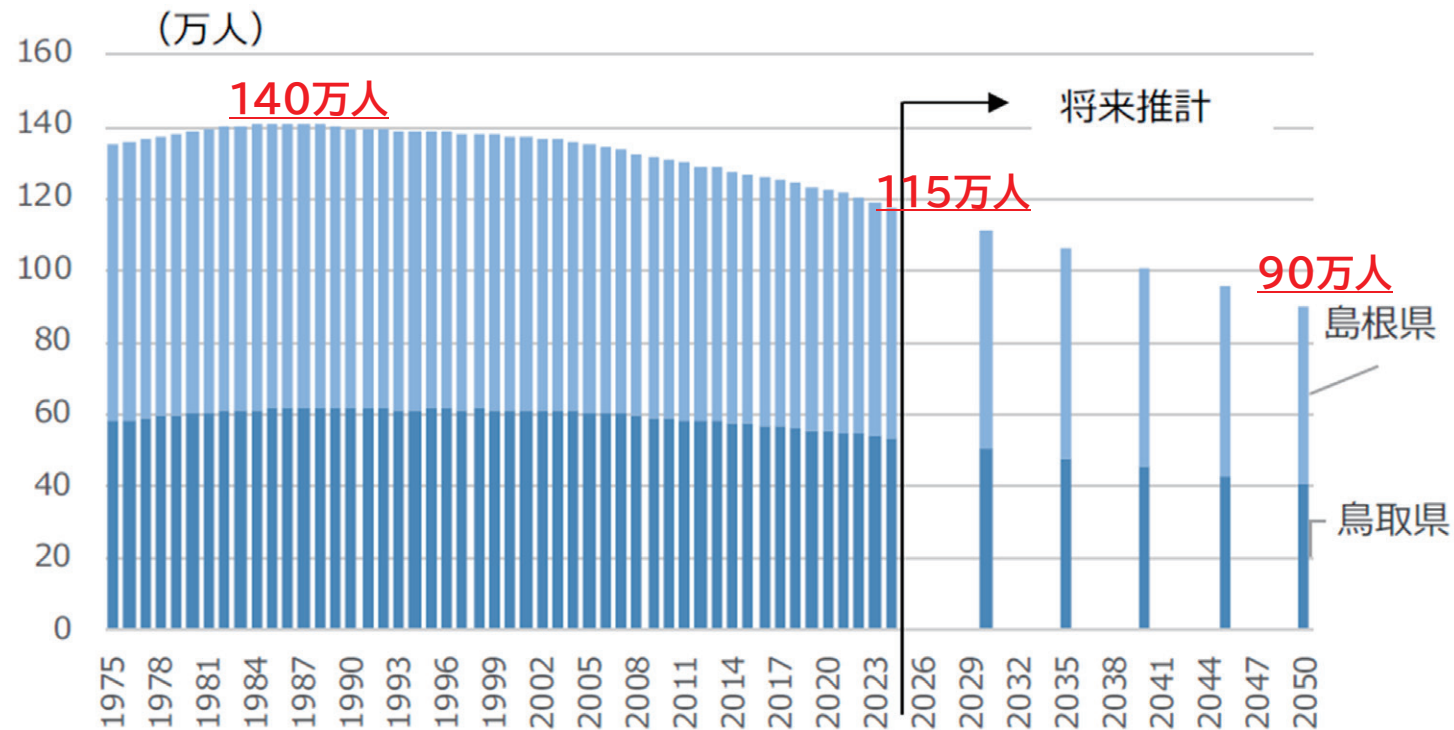


IV. 山陰の課題

(1) 人口減少、高齢化

- ・両県は、他地域に先んじて1985年をピークに減少に転じる(対ピーク▼2割)。
県外流出が以前から顕著。
- ・2050年には、両県併せて約90万人(対現状▼23%)の想定。
- ・地域の担い手、後継者不足が顕在化。

【人口推移】



(出典)山陰合同銀行資料にJAPIC追記

IV. 山陰の課題

(2) 脆弱なインフラ

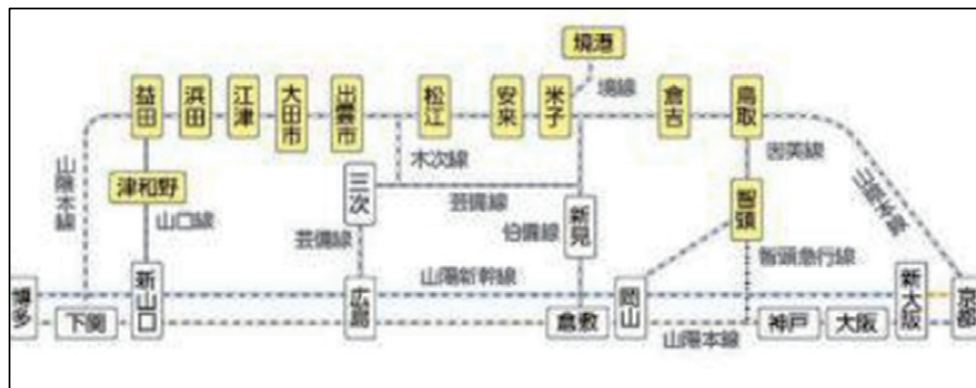
- ・両県に5つの空港があるも、東京以外からのアクセスが貧弱。

※出雲空港(静岡1、名古屋3、伊丹4、福岡2 各往復)、隠岐空港(伊丹1、出雲1 各往復)を除き、鳥取、米子、萩・石見の各空港は羽田便のみ。

※現在、米子空港から関西空港や関空を経由した他都市への新たな路線が検討されている。

- ・地域内の鉄道は山陰本線があるも、運行頻度は疎ら。地域外とのアクセスは、山陽側から智頭急行・伯備線が通るも、頻度・速達性に課題。
- ・地域内も高規格道路が全通しておらず、高速道路も2車線が主体。
- ・陸上交通は、単線、2車線、代替路の不足等、全体的に脆弱なため、レジリエンスに課題。

中国地方の鉄道



(出典)JR西日本

中国地方の高規格道路



(出典)国土交通省資料

IV. 山陰の課題

(3) 魅力が伝わっていない

- ・**県別魅力度が低い**。鳥取県44位、島根県42位(2025年地域ブランド調査)
- ・観光面でも、延べ宿泊数(2024年)では、鳥取県43位、島根県41位。日帰り中心で宿泊日数も短いため、滞在型観光に課題。
- ・魅力的な地域資源が豊富にあるものの、「**知っている人だけが行く**」状態。

都道府県魅力度 ランキング2025

順位		都道府県名	魅力度(点)	
2025	2024		2025	2024
1	1	北海道	70.7	70.8
2	2	京都府	52.6	55.6
3	3	沖縄県	48.6	49.8
4	5	神奈川県	43.1	42.6
5	4	東京都	42.1	48.3
41	42	徳島県	18.8	18.0
42	38	島根県	18.0	19.4
43	43	山口県	17.8	17.3
44	44	鳥取県	17.3	16.3
45	47	佐賀県	15.4	14.9
46	45	茨城県	14.3	16.0
47	46	埼玉県	13.7	15.2
47都道府県平均			27.8	28.0

ブランド総合研究所「地域ブランド調査2025」

都道府県延べ宿泊者数 ランキング2024

順位	県名	日本人+外国人
1	東京都	110,977,440
2	大阪府	56,455,300
3	北海道	42,017,930
4	京都府	33,168,590
5	沖縄県	31,940,360
⋮	⋮	⋮
41	島根県	3,482,080
42	秋田県	2,989,750
43	鳥取県	2,937,590
44	奈良県	2,808,290
45	高知県	2,664,680
46	徳島県	2,615,700
47	佐賀県	2,291,450

(出典)山陰合同銀行資料

山陰地区で認定されている遺産

- ユネスコ世界ジオパーク
 - ・隠岐諸島
 - ・山陰海岸
- 日本ジオパーク
 - ・島根半島・宍道湖中海
- ユネスコ世界遺産
 - ・石見銀山遺跡とその文化的景観
- 日本遺産（全国105のうち9カ所が当地区）
 - ・六根清浄と六感治癒の地
 - ・津和野今昔
 - ・地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
 - ・出雲国たたら風土記
 - ・日が沈む聖地出雲
 - ・日本海の風が生んだ絶景と秘境(鳥取砂丘)
 - ・神々や鬼たちが躍動する神話の世界
 - ・中世日本の傑作 益田を味わう
 - ・石見の火山が伝える悠久の歴史

V. 山陰が目指すべき姿

(1) 新たな時代の到来

- 2018年の働き方改革関連法の制定などにより、地域や身の回りの暮らしやすさを大事にする人々の志向が高まっており、伝統的な「仕事中心社会」が「ワークライフ・バランス型社会」に移りつつある。
- 人口や市場の規模による経済の論理に支えられた従来の地域づくり一辺倒から、人々の暮らしやすさや自然・文化・歴史を中心に据えた分散・連携型の地域づくりにも注力すべき時代。
- 大型施設を造り大量な観光客を運び込む「観光」の開発ではなく、自然・歴史・文化・風土を活かした地元主体によるオンリーワンの「通年型・滞在型観光」の振興が重要。

V. 山陰が目指すべき姿

(2) 豊かなスローライフの形成

- ・効率性中心でない山陰の特長を活かしたライフスタイル:スローライフの形成に取り組み、住む人にも訪れる人にも暮らしやすく誇れる地域を目指す。
- ・多彩な特徴をもった多くの地区からなる山陰地方を、分散と連携を強化することにより更なる発展を目指す。

【豊かなスローライフの実現に向けた方策】

- 暮らしやすさの向上に向けたソフト・ハードの充実
- 個性的な歴史や文化や景観などの磨き上げ
- 穏やかな世代交代、新たな人材・事業者の受入
- 多様な住民が交流する地域形成
(移住者や多地域居住者、リモートワーカー等)
- 農水畜産品や伝統的食品等の地域資源を活かした循環型経済形成
- 自然環境や歴史、温泉などを活かし落ち着いた長期滞在型観光
- 全世代に優しい域内交通システム
- 地域外との幹線交通を強化



(出典) 山陰インバウンド機構公式サイトより

VI. 提言

①文化や信仰によるスローライフな地域づくり ～出雲地域における展開～

- ・四十二浦の文化・信仰・自然を楽しむスローなアクティビティ
- ・日本酒発祥の地としてのブランディング、商品開発 等

②地域産品を活用したスローライフな地域づくり ～大山地域における展開～

- ・酪農、乳製品のブランド強化、アグリツーリズム等の開発
- ・「食の博物館」による継承、規制・誘導による地域資源保護

③スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり ～温泉津における展開～

- ・世界遺産「石見銀山」を構成する港町：温泉津の魅力向上
- ・桟橋やエスプラナードによる海辺の整備、古民家活用・無電柱化による街の活性化

④山陰の魅力をじっくり楽しむ横断的な広域観光連携

- ・「縁の道 山陰」の観光拠点結び付け
- ～ デジタルスタンプラリー、立体的MaaSの導入、アクセシブル・ツーリズムの強化、サイクルツーリズム ～

⑤『中海・宍道湖・大山圏域』の拠点性及び周辺地域との接続性強化

- ・次世代モビリティを活用した、陸・水・空の立体交通拠点整備による都市機能の強化、文化・芸術による拠点性構築
- ・1級河川を活用した都市と周辺地域の接続性強化

⑥円滑な移動を支える都市交通の再整備

- ・米子： 境線の近代化・LRT化による市内回遊性と拠点性の向上
- ・松江： 武家屋敷地域の道路空間再整備による魅力向上

⑦山陰地方の発展を支える広域幹線交通の強化

- ・域内外の高速移動実現に向けた、高速鉄道の適切な整備手法・ルートの検討、地域でのコンセンサス確立

提言プロジェクト

2

Japan Project-Industry Council

提言プロジェクト ①

文化や信仰によるスローライフな地域づくり ～出雲地域における展開～

【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～出雲地域における展開～

1. 出雲地域の特徴

- 旧出雲国は、神話のふるさと。「出雲風土記」にも記載があるような、文化・信仰・祭り・食 等が今も色濃く息づく。
- 島根半島の日本海側は、美しい海岸線が続くが、古くから、汐汲みをしながら浦々の神社を巡る「四十二浦巡り」といわれる信仰習俗がある。
- 出雲はまた、神話にも出てくる日本酒発祥の地。佐香神社は神社でありながら酒造免許を有する。
- 今も地域(浦々)毎に信仰習俗を残すが、担い手不足により、その継承が課題となっている。

古浦海水浴場の美しい景観



(出典)島根県公式観光情報サイト

四十二浦巡り

東西約80Kmの入江をつなぐ。各浦々に神社や祠、独自の祭りが存在。「四十二浦巡り再発見研究会」が活動。



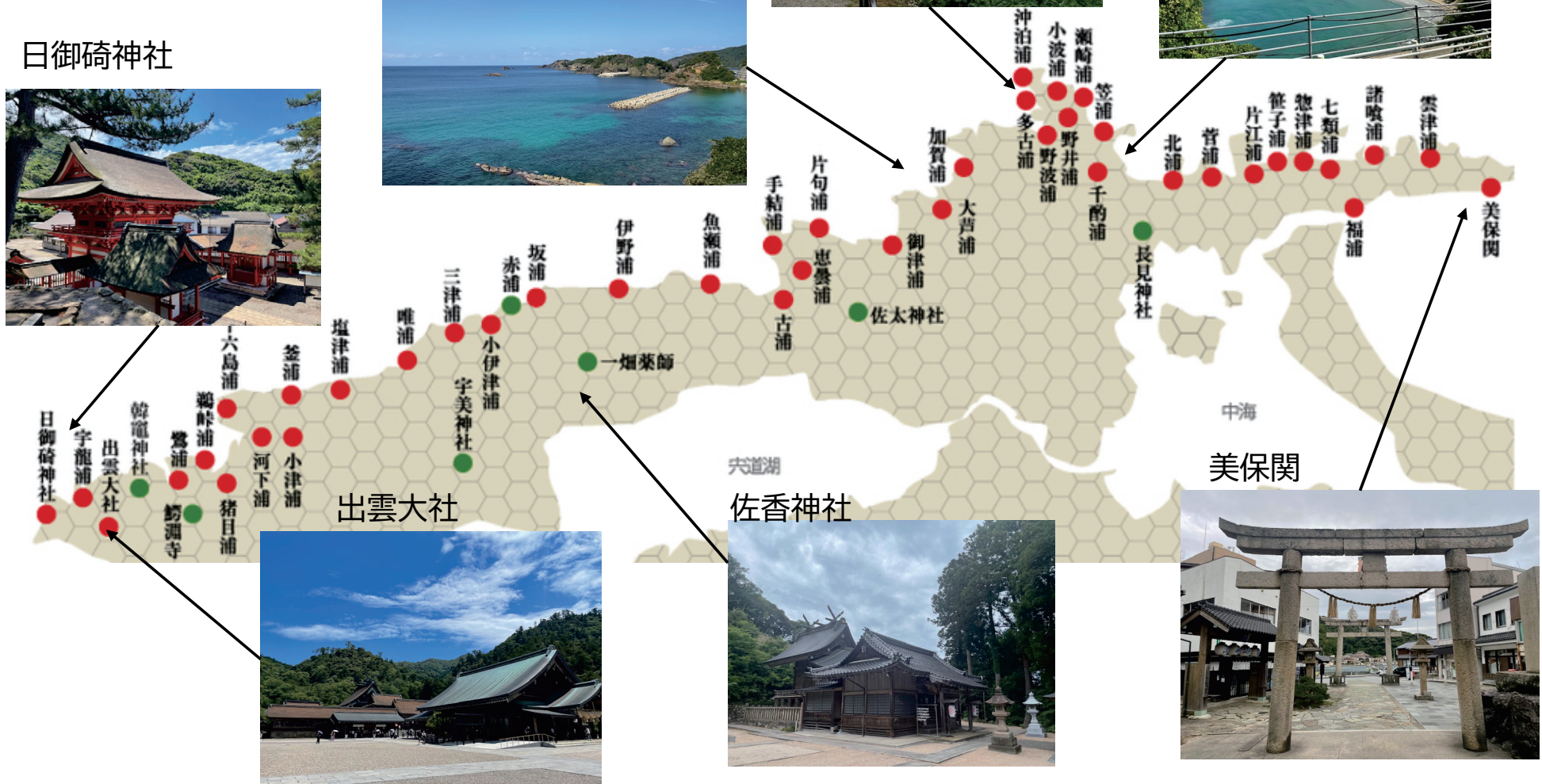
出典：島根半島 四十二浦巡り <https://www.42ura.jp/guide/>

島根半島の自然、文化、信仰

マリンパーク多古鼻

(写真)JAPIC林田撮影

日御碕神社



【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～ 出雲地域における展開～

2. 提言(1)

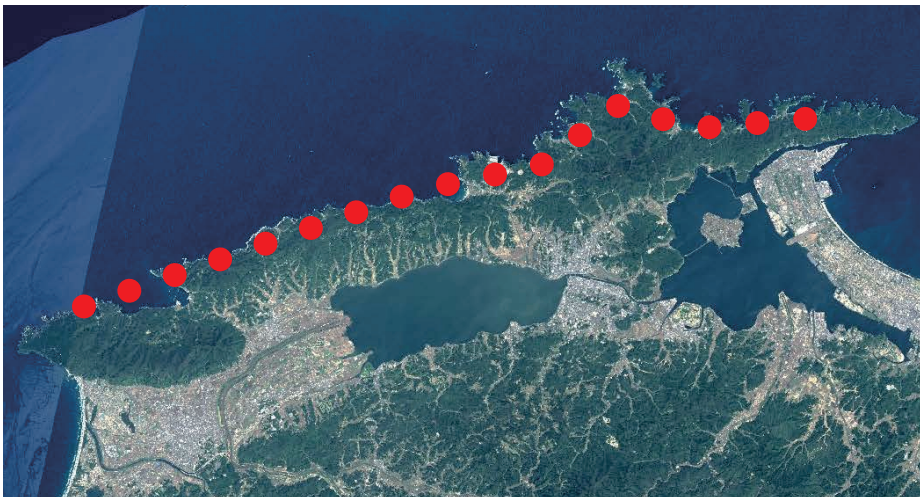
四十二浦の文化や信仰、及び豊かな自然を、スローに楽しむための施設整備。担い手確保による将来への継承。

- トレイル、サイクルルート整備。及び、ルートや文化・伝承を参照可能なアプリの構築。
- 古民家・民宿、キャンプ等、滞在型の宿泊施設整備。
- カヤック、SAP等海辺を楽しむ体験型観光の充実

海辺のアクティビティ(SAP)



トレイル・サイクルルートの整備イメージ



古民家を改装した宿泊施設と町おこしの例(鵜鷺)



出典：鵜鷺げんきな会HP
https://wajimaya.com/topics/32.html#wajimaya_area

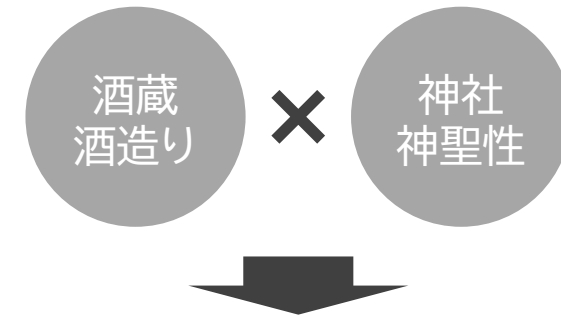
【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～ 出雲地域における展開～

2. 提言(2)

神話に起源を有する「神様への捧げもの」
としての日本酒を、地域の唯一無二の産品として磨き上げ、観光を軸にしながら地域文化を継承。

- 神社自体が酒造免許を有している佐香神社と連携した新たなGI商品^{*1)}、「神聖性」を評価軸に加えた独自の格付け商品の開発。
- 地域の蔵元が連携したイベントの実施（地域全体での「蔵開き」等）
- 出雲、松江エリアの神社と酒蔵を巡るsakeガストロミーツアーを実施。

*1)GI:Geographical Indication（地理的表示保護制度）



地域アイデンティティ
伝統に対する誇りと保護意識



神社自体が酒造免許をもつ佐香神社

【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～ 出雲地域における展開 ～

3. 実行方策(1)

①活動の主体となる組織の強化、資源の価値づけ

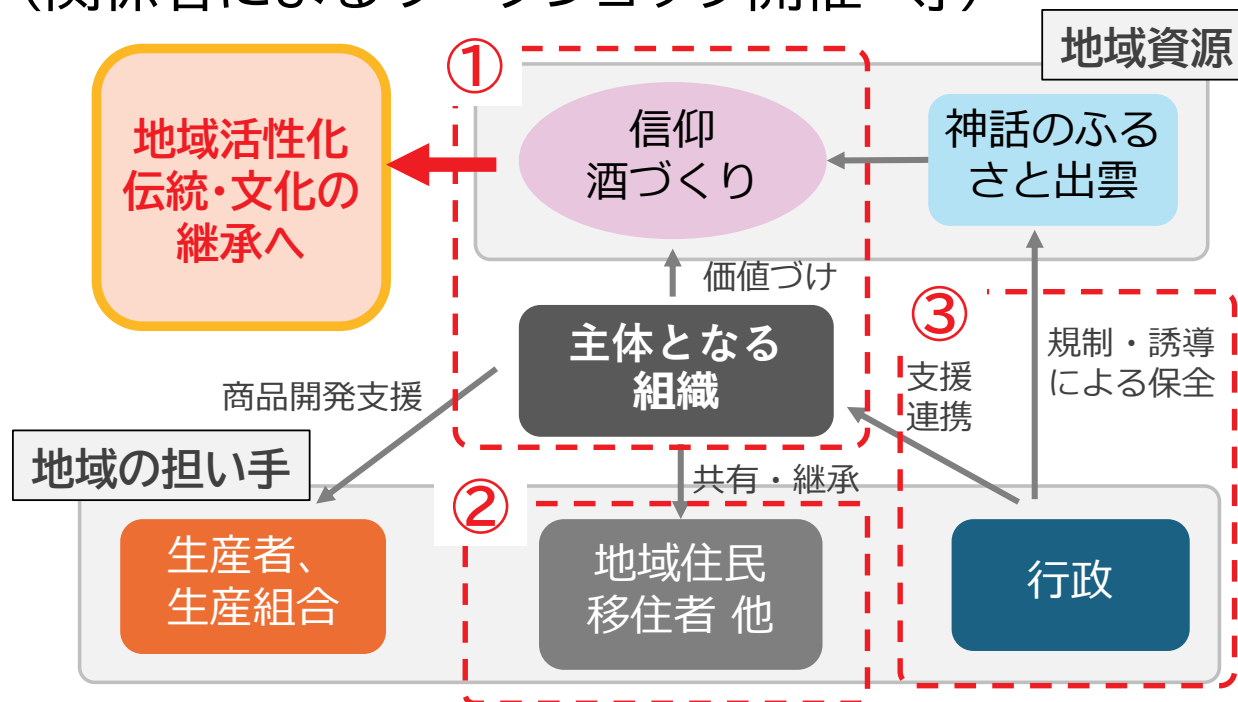
ex. 四十二浦巡り再発見研究会、島根県酒造組合 等

②地域の支援体制強化

- ・外部活力の受け入れ（移住者、二拠点居住者、期間限定出店 等）
- ・文化、伝統の共有・継承（関係者によるワークショップ開催 等）

③行政等による支援

- ・地域資源の価値保全
- ・山陰インバウンド機構等
地域DMOとの連携
- ・必要インフラの整備



【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～ 出雲地域における展開 ～

3. 実行方策(2)

プラットフォーム『スローライフ山陰』の立ち上げ ～他提言にも共通

【目的】 山陰の活性化を支援するため情報発信力を高める。

- 地域内で互いに情報交換し協力し合い、また地域外に山陰の取り組んでいることを伝える「地域の発信力」を強化。
- このため山陰で活動する各主体を緩やかに繋ぐプラットフォームを立ち上げる。

【イメージ】 山陰に住む人訪れる人にとっての交流の「デジタル広場」、助かる「デジタル便利帳」。

【参加者】 山陰で活動する個人、グループ、民間企業、教育機関、各種団体など。

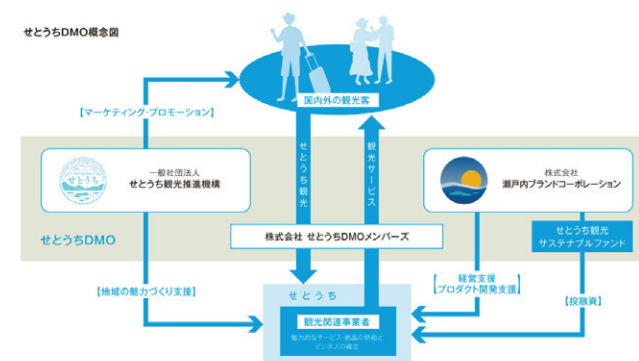
【活動】 各参加者が公開するホームページやブログなどをプラットフォームに掲載し意見交換する。

- 交流の場、意見交換の場、イベント情報などの提供
- 域内巡回取材、困り事取材、活動紹介、人材募集情報、新規参入者取材など
- 著名人のオンライン特別講演、テーマ、トピックスを定めオンライン意見交換会など

【資金】 会費と寄付を中心に行う。

(参考になるプラットフォームの例～せとうちDMO)

～関連自治体、地元金融機関、多くの地元企業が参加し、観光資源を最大活用した地域づくりを実施。



【文化や信仰によるスローライフな地域づくり】 ～ 出雲地域における展開～

4. プロジェクトの効果

- 信仰、酒造りといった、地域の文化・製品の磨き上げによる地域アイデンティティの再発見。地域内循環の拡大。
- 古代から息づく暮らし、スローライフに魅せられた人々による関係人口拡大、観光客・移住者の増加。
- 関係人口拡大に伴う、地域の伝統・文化の担い手確保、将来への継承。
- 伝統ある「出雲」という地域、地域資源・地域産業の持続。



(出典)山陰インバウンド機構

提言プロジェクト ②

地域産品を活用したスローライフな地域づくり ～大山地域における展開～

【地域産品を活用したスローライフな地域づくり】 ～大山地域における展開～

1. 大山地域の特徵

- 大山周辺は、その広大な裾野で酪農が盛んであり、牛乳や乳酸品と共に美しい景観が特長である。
- 大山では大山乳業農業協同組合が地域の約80軒の酪農家を束ね、生乳処理から販売までを行っている。
- 大山の牛乳には「白バラ認証制度」という独自の認証制度が設けられており、「白バラ牛乳」として高い品質を持っている。
- また地域との共生として自治体との連携(酪農体験インターンシップ等)、消費者との交流にも取り組んでいる。
- 更なる商品の高付加価値化、産業の持続化を図っていくため、商品開発や遊休農地の活用、新規の技術継承者の獲得などが課題となっている。



大山山麓の農場の景観



地域との交流イベント

【地域産品を活用したスローライフな地域づくり】 ～大山地域における展開～

2. 提言(1)

産業間連携によるアグリツーリズム開発・6次産業化

- 宿泊事業者、交通事業者等が産業間連携によるアグリツーリズムを開発、酪農の6次産業化。グリスロ(グリーンスローモビリティ)活用による大山山麓ツアー。

格付けによるプロモーションとブランド管理

- 白バラ認証制度の全国的なプロモーションを強化
→高級ホテルの朝食やベーカリー・パティスリーチェーン等、健康志向・素材重視の事業者との連携・コラボ商品の開発
- ブランド管理による商品・販売チャネルの多角化
→地域産業の持続性、地域の生活アイデンティティの両立



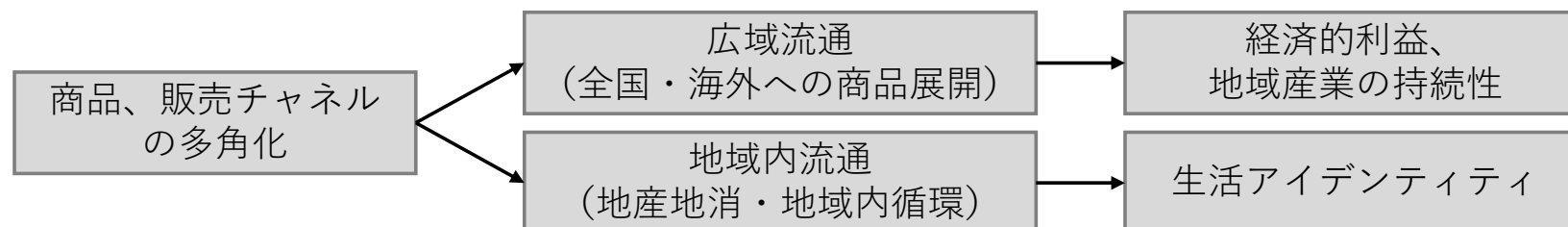
大山酪農家を巡るアグリツーリズム



グリスロによる大山の周遊

出典：道の駅阿蘇

<https://www.aso-denku.jp/blog/2024/12/greslo/>



【地域産品を活用したスローライフな地域づくり】 ～ 大山地域における展開～

2. 提言(2)

地域産品の理解・継承

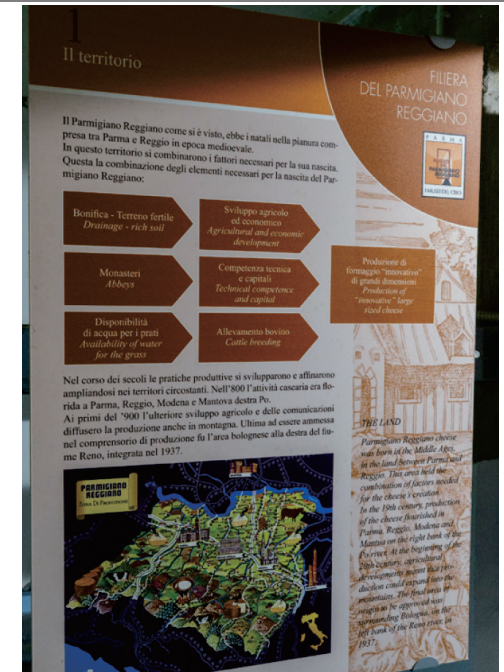
- 白バラ牛乳等大山の地域産品を地域内外の人々に理解してもらい、次の世代に継承していく「食の博物館」の整備

規制・誘導による地域資源の保護

- 行政の規制や誘導により地域資源となる景観等を保護
→簡易的な手法による無電柱化など実効的な景観形成
- 地域資源の保護に取り組む事業者に対する補助金等のインセンティブを与える制度設計

現状の規制・誘導に対する課題認識

- 農業生産条件の不利な地域に対する補助制度等はあるが、景観保護・文化アイデンティティの形成などプラスの価値を評価・支援する制度は不足
- 農地・居住・観光が一体となった支援策の必要性



地域産品の普及・啓発のための「食の博物館」
(写真は、イタリアの事例)

【地域産品を活用したスローライフな地域づくり】 ～大山地域における展開～

3. 実行方策

①6次産業化のため地域内の関連事業者が業種を越えて連携し、地域全体のブランド価値を高める産業クラスターの形成

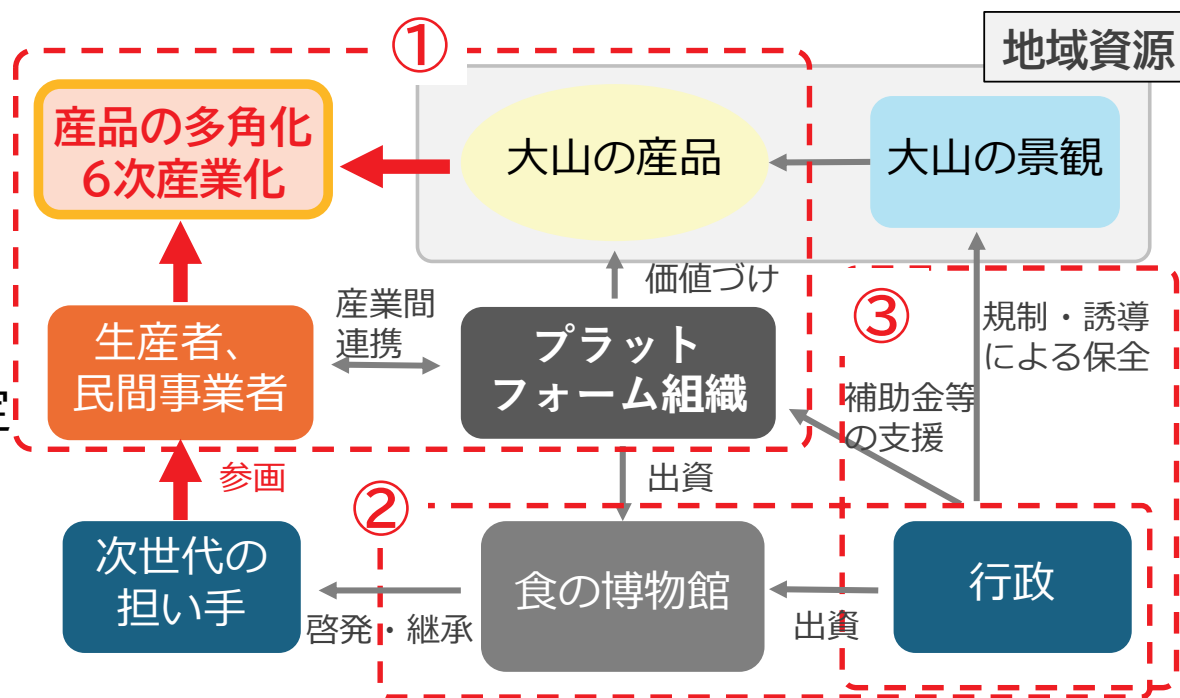
- 大山乳業農業協同組合を中心としたプラットフォーム組織の結成
- 県、自治体などの行政が組織運営のための資金を出資

②「食の博物館」の整備

- 県、自治体、大山乳業農業協同組合とが共同出資により整備
ex. 「大山まきばみるくの里」の活用
(アクセス性の改善含む)

③行政等による支援

- 地域資源のためのビジョン策定
- 条例等の規制、ガイドライン等作成による誘導
- 補助金等の制度設計



【地域産品を活用したスローライフな地域づくり】 ～大山地域における展開～

4. プロジェクトの効果

- 地域の産業のネットワークが形成されることによる地域内での産業の活性化
- 6次産業化による高付加価値の商品開発による地元酪農家・地域産業の持続化
- 地産地消に対する地域住民の意識の向上、生産者に対する理解と担い手育成
- 民間事業者だけでは、保護しきれない公共空間に対する保護・投資の活性化



出典：大山乳業農業協同 <https://dainyu.or.jp/>



出典：鳥取大山観光ガイド
https://tourismdaisen.com/about_daisen/

提言プロジェクト ③

スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり ～温泉津における展開～

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～ 温泉津における展開～

1. 温泉津の特徴

- 温泉津のある島根県西部は、世界遺産や豊かな自然に恵まれるが、地域振興の注目度が低い事が課題
- まちづくりでは駅前通りの衰退、港湾の景観改良、宿泊機能強化などが必要
- 世界遺産「石見銀山」も、世界史に残る深い歴史を有するものの、魅力が十分発揮できていないのが実情



日本海に向かって開ける温泉津港

温泉津の潜在力

■ 世界遺産「石見銀山」の重要な一部を構成

【世界遺産の4つの評価要素】

① 鉱山・集落

② 輸送路

③ 積出港

④ 自然環境

温泉津

■ 港湾としての魅力

- ・リアス式の美しい海岸に囲まれる恵まれた景観
- ・日本海に沈む美しい夕日が眺められる立地

■ 港まちの魅力

- ・銀の積み出しや北前船の寄港地としての歴史ある温泉まち
- ・街並みは「大田市温泉津伝統的建造物群保存地区」
- ・窯業のまちとしても有名



伝統的建造物で構成される歴史ある温泉街

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

2. まちづくりの基本方針

■スローライフに寄与する海辺のまちづくりには地元のシビックプライド*1)醸成が重要

- ・山陰の海辺にある小規模のまちが英国の海岸都市と類似する点が多い
- ・持続的なまちづくりにはシビックプライドを醸成することが重要
- ・英国の成功事例を参考して栈橋、エスプラナードの整備を導入

■まちづくりの具体的提案

①栈橋、エスプラナード*2)の整備

- ・まちから海の沖に向かう縦軸と直交する横軸でまちの空間を再構成
- ・縦軸⇒「栈橋」を基本に、横軸⇒「エスプラナード」を主に設定
- ・栈橋は海に近づく散策機能だけでなく、食材、文化、イベントを体験できる施設を整備

②古民家活用と電線地中化

- ・古民家活用⇒移住促進などを通じ宿泊、ワーケーション、飲食施設へ積極転用
- ・電線地中化⇒最新の事業費軽減策を研究し市街の景観向上

【提言での定義】

*1)シビックプライド：自分の住むまちに対する誇りや自発的な改善の行動

*2)エスプラナード：海辺の遊歩道



【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

3. 提言：海辺のまちの再整備

1) 4つの空間軸による海辺のまちの再構築

- 3つの縦軸(まちから沖に延びるもの): **縦軸①** 棧橋、**縦軸②** 駅前通り、**縦軸③** 温泉街
- 1つの横軸(海辺に沿った軸): **横軸①** エスプラナード
- 4軸と3つの結節点によりまちづくりを再構築



【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

3. 提言：海辺のまちの再整備

2) 提言内容（計画概念図(前頁)参照）

2-1 縦軸① 棧橋

- 海上散策だけでなく石見神楽の鑑賞、地元食材のマーケット、カフェ・レストランなどの施設整備
- 廃施設に残存する棧橋(W=4m、L=60m)を参考に、規模W=10～20m、L=100～150m
- 先端部には広めの展望テラスを設置しイベントなどに活用

2-2 縦軸② 駅前通り

- 棧橋延長線上にある駅前通り商店街を温泉街と同様に活性化
- 電線地中化、古民家を宿泊・店舗・ワーケーション施設として再生し旅行者や移住者を受け入れ

2-3 縦軸③ 温泉街

- 電線の地中化により景観整備を更に推進
- 古民家再生をさらに加速させ店舗・宿泊機能を強化、旅行者や移住者の受け入れ促進

2-4 横軸① エスプラナード

- 福光地区⇒棧橋⇒沖泊⇒鞆ヶ浦港の海岸を繋ぐエスプラナード(琴ヶ浜までの延長考慮)
- 沖泊地区の整備、サイクリング道路を併設整備

2-5 3つの結節点

- ゲートウェイ機能整備：案内所、休憩所、駐車場、駐輪場など
- イベント広場整備

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～ 温泉津における展開～

参考事例(1) 桟橋とエスプラナード(英国)

■英国の海岸沿いの小規模都市の事例:シビックプライドを醸成するまちづくり

- ・小規模の英国の海辺の都市では**桟橋**と**エスプラナード**の組み合わせで活性化
- ・地元有志が設立した桟橋会社は、公的援助も受けながら桟橋を維持し地元貢献
- ・英国の小都市のシビックプライド醸成に大きな貢献

(提言での定義) ・**桟橋**⇒海岸から沖に延びる船の接岸を主目的としない構造物

・**エスプラナード**⇒海辺の遊歩道

・**シビックプライド**⇒自分の住むまちに対する誇りや自発的な改善の行動

英国東部のクローマー桟橋



散策する人々で賑わうエスプラナード(Salt Burn)



写真提供:井上聡史氏

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

参考事例(1) 栈橋とエスプラナード(国内)

■我が国の事例:稲毛海浜公園「海に延びるウッドデッキ」

- ・人工海浜の「いなげの浜」とマッチした公園の名物施設
- ・2022年、民間資金(公園のレストラン事業者)により整備
- ・東京湾の夕日が見られる施設として訪問者多数、イベントにも活用

【諸元など】

- ・延長90m、デッキ幅10m
- ・千葉市都市文化賞2022 景観まちづくり部門 優秀賞受賞



【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

参考事例(2) 古民家活用・電線地中化など



電線地中化（岡山県矢掛町：整備前後のまち並み）

- ・まちの景観向上効果が**集客力強化**につながり、まちの活性化策として再注目
- ・従前手法に捕らわれない経済的な手法が研究され事例も増加
- ・小型ボックス活用、埋め込み式など地中化のコンパクト化を研究

【写真提供（一財）日本みち研究所】

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～温泉津における展開～

4. プロジェクトの推進方策

1) 地元との意見交換

1-1 地元行政

- 島根県:都市計画関連部門、観光促進部門、港湾部局
 - ・各種のまちづくり計画、世界遺産の石見銀山、津波対策機能
- 漁業協同組合関係
 - ・栈橋構築と活用に関する意見収集
- 大田市:政策企画部、教育部、温泉津まちづくりセンター
 - ・温泉津のまちづくり、世界遺産の積出港の活性化、移住促進施策の現状と課題

1-2 NPO等

- まちづくり団体⇒温泉津まちなみ環境整備委員会
- 移住や古民家活用⇒空き家活用の民泊推進事業者など
- 各種団体と電線地中化(無電柱化)手法について研究し整備計画を策定

2) 「栈橋研究会」設置により栈橋活用の理解を推進

- 地元有志で構成された研究会組織を設立
- 整備手法を研究し海岸マスタープランを作成
- PFI手法での建設・運営も検討
- 「PIERS研究会」に協力を依頼

3) 海辺のまちの活性化について講演会やシンポジウムを開催

- 海辺のまちづくりに関連する行政、民間や地元住民を対象
- 世界遺産活用に関する関連シンポジウムとの協働

【スローライフを楽しむ海辺の小都市のまちづくり】 ～ 温泉津における展開～

5. プロジェクトの効果

1) 地域観光のフラッグシップとして機能

- ・世界遺産の銀山以外で注目度の高い観光名所となり訪問者の周遊性が向上
- ・世界遺産観光の弱点であった宿泊機能の強化で幅広い客層の確保が可能
- ・島根県西部地区の魅力的なまちのモデルとなり地域の活性化に大きな貢献

2) まちの魅力度アップでスローライフの舞台を提供

- 棧橋、エスプラナードという装置を介して演出
 - ・インフラだけでなく神楽などの文化をアピール
- 古民家を活用した店舗・宿泊・ワーケーション施設
 - ・若い世代の移住、二拠点居住が促進
 - ・カフェ、宿泊、物販等の観光に関わる事業への経営参画
- 漁協の協力で漁業の活性化
 - ・棧橋との連携で様々な漁業関連の事業を展開

3) 棧橋・エスプラナード・電線地中化によるまちづくりを 他地域に展開

- 島根・鳥取の美観の優れる海岸に面する都市のまちづくりに適用可能
- 成熟社会の日本の新たな滞在型海岸リゾートとして新たな形態を提言

4) シビックプライドの普及促進

- ・プロジェクトで醸成されるシビックプライドは、地方のまちの活性化に大きな波及効果
- ・成熟社会におけるインフラ整備や維持管理においても重要な概念が普及



移住者が経営する古民家をリノベした
カフェ(温泉津／現地で撮影)

提言プロジェクト ④

山陰の魅力をじっくり楽しむ横断的な 広域観光連携

1. 現状と課題

- 多種多様な地域資源の情報はあるものの「知っている人しか行けない」状態。
- 地域の担い手や予算には限りがあるため伝統・文化の継承に懸念が生じている。
- 山陰インバウンド機構が掲げる「縁(えん)の道 山陰」のコンセプトが示すように、山陰ならではの多様な旅をより多くの人にじっくり体験してもらうことが、これからの観光地づくりにおいて重要である。
- 一方で、障がい者や訪日外国人等にとっては域内外の移動に大きな障壁がある。また、山陰にある5つの空港は航空会社が分かれ（出雲空港・隠岐空港はJALのみ、他空港はANAのみ）、周遊観光や地域間移動の妨げになっている。

2. 提言

■「縁(えん)の道 山陰」の広域観光拠点を結びつけるための4つの仕掛け

- ① デジタル技術を用いた鳥取・島根を結ぶ地域資源の認知度・魅力度向上
- ② 山陰への出入を円滑にする広域・立体的なMaaSの導入
- ③ アクセシブル・ツーリズム※の理念に基づくアクセスの質の強化
- ④ サイクル・ツーリズム

※障害者や高齢者など、移動やコミュニケーションにおける困難さに直面する人々のニーズに応えながら、誰もが旅を楽しめることを目指す取り組み

出典：アクセシブル・ツーリズム推進シンポジウム (<https://at-symposium.metro.tokyo.lg.jp/>) , 東京都産業労働局観光部受入環境課



- ・ ルート名称：縁(えん)の道山陰～
英訳：Route Romantic San'in
- ・ 副題：新たな発見 新たな出会い もうひとつの日本
英訳：Make fantastic encounters. Discover another Japan.
- ・ コンセプト：日本人が大切にしている「縁」にスポットをあて、日本の最も古い歴史を有する地域である山陰で、「神話」・「伝説」をテーマに山陰の「自然」「歴史」「文化」を体験する旅
- ・ コンセプトの考え方：本州西端の日本海側に位置する山陰は、中国山地と日本海に挟まれた、古代からの歴史、文化、自然が今に残る地域である。その地を舞台に、素戔鳴尊や大国主命などの神々が活躍する古代神話が語り継がれており、また、かつて世界の銀の三分の一が生産されていた世界遺産「石見銀山」や、山陰海岸と隠岐の2つの世界ジオパークをはじめとする豊かな自然が守り伝えられ、今に残されている。都会から離れているがゆえに、他の地域には残されていない日本の原風景を自転車やウォーキングなどさまざまな旅のスタイルで体験できる山陰は、日本を旅慣れた外国人観光客に対しても新鮮な驚きを与えることができる。



出典：山陰インバウンド機構 (<https://www.sanin-tourism.com/ennomichi>)

3. 提言の具体内容

① デジタル技術による鳥取・島根を結ぶ地域資源の認知度・魅力度向上

- 地域の歴史や文化に係る情報をデータベース化したうえで、**生成AI等を用いて対話型のデジタル版聞き語り体験などを促進する。**
- 鳥取・島根両県に共通する地域資源を横断的に結ぶ「**デジタルスタンプラリー(例えば、デジタル版民藝運動)**」を構築し、**窯体験など生産・創作現場の体験型観光を促進する。**

※他に、神話、信仰、たたら製鉄文化、食文化など多数の共通資源あり

「トリパス」等の県や地域単位の既存の取組と連携を想定



出典：とっとり旅パスポート「トリパス」ウェブサイト (<https://www.tottori-guide.jp/toripass/>)、鳥取県観光連盟

② 広域・立体的なMaaSの導入

- 例えば、「出雲IN／鳥取OUT等の周遊航空券」(**オープンジョー+マルチキャリア**) + 「**レンタカー乗捨・割引**／公共交通割引／ラストマイル手段割引」等の周遊チケット等のパッケージ施策導入。

3. 提言の具体内容

③ アクセシブル・ツーリズムの理念に基づくアクセスの質強化

- 自治体、民間、社会福祉法人等で構成されるアクセシブル・ツーリズム推進組織の設置(山陰バリアフリーツアーセンター拡充等を想定)。支援体制や地域教育の充実。
- 山陰地域一体となったバリアフリー施設や経路情報等の整備や可視化(デジタルツイン等活用)。
- 山陰MaaS導入(情報・決済含む)による旅行不安・負担の軽減。
- 鉄道駅や空港、道の駅などの交通拠点や滞在拠点に移動しやすくするための各種モビリティを配置。



アウトドア用車いす

出典：飯丘観光 (<https://iiooka-kanko.com/accessibletourism/>)



けん引用車いす補助装置



リフト付きバス



カート



e-bike

出典：しまなみ自転車ツーリングTips
(<https://touring-shimanami.com/rentalbike-electric/>)

3. 提言の具体内容

④ サイクルツーリズム

- 「鳥取うみなみロード」がナショナルサイクルルートに指定(2026年7月)
- 島根県～広島県へ中国地区を横断する「やまなみ街道」、さらには瀬戸内海を横断する「しまなみ街道」と接続。ルート整備を強化。

ex. 交通安全のための道路整備

休憩施設や拠点となるサイクル
ステーション等の整備

- スローに山陰をじっくり楽しむ、
この地ならではの観光を促進。



本線脇の自転車専用トンネルの例



古民家を改造した休憩施設の例



出典：TABIRIN

4. プロジェクトの効果

■ 新たな観光体験の創出と広域周遊促進

- デジタル技術で埋もれた地域資源を可視化し山陰の横断的周遊を促進。これにより来訪客が増加。
- 山陽含む中国地区全体の周遊も活性化。

■ 観光消費の拡大と地域経済の活性化

- 利便性向上による周遊促進、体験型観光により滞在時間を延ばし、地域での観光消費額増加を実現。

■ 伝統・文化の保存と継承への貢献

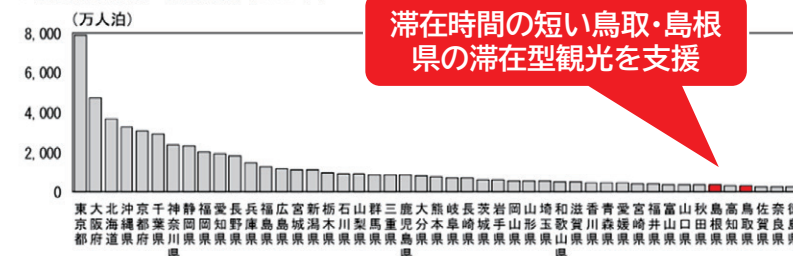
- 地域を応援する関係人口の創出や定住を促進
- 観光収入の増大を文化財の維持や伝統産業の継承に繋げ、地域が誇るスローライフの実現に貢献。

■ アクセシブル・ツーリズムの実現

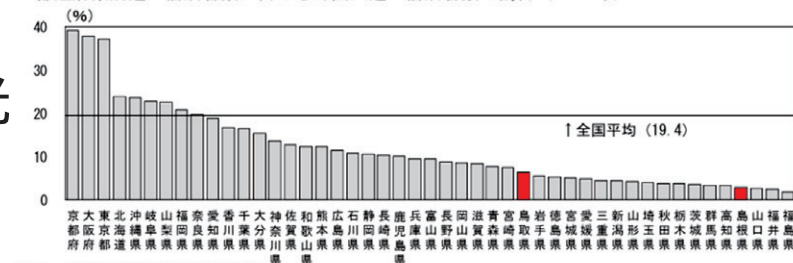
- 誰もが快適に旅行可能となる環境を実現。観光地として多様な属性に選ばれる地域になり、新たな山陰ブランドを確立。

■ 都道府県別の宿泊延べ数

▽ 都道府県別延べ宿泊者数（2019年）



▽ 都道府県別延べ宿泊者数に占める外国人延べ宿泊者数の割合（2019年）



出典：山陰経済の特徴（2021年8月改訂）

『中海・宍道湖・大山圏域』の拠点性及び 周辺地域との接続性強化

1. 現状と課題

- 人口60万人の中海・宍道湖・大山圏域は、日本海側における西日本唯一の人口集積拠点であり中山間部等の周辺圏域を支える重要な都市サービス拠点でもある。
- 山陰の地形は、日本海に面して東西に長く、2つの湖、6つの一級河川、中国山地を要する風光明媚な魅力を有する一方、その地形が移動障壁の要因となり点在する都市単独での機能の維持(山陰ならではのスローライフの維持)を難しくさせている。
- 現在、整備要望活動中の中海・宍道湖8の字ルート of 早期整備を図るとともに、中海・宍道湖・大山圏域の都市機能の拠点性強化(集積化)と周辺地域との接続性強化が必要。

【『中海・宍道湖・大山圏域』の拠点性及び周辺地域との接続性強化】

2. 提言

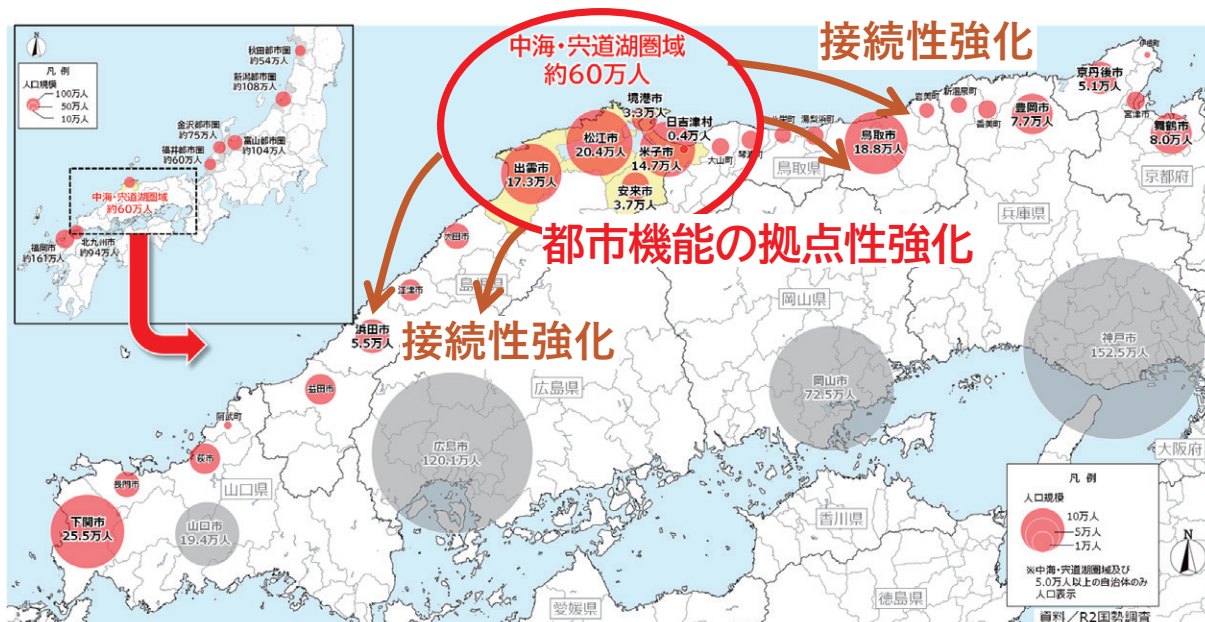
■ 中海・宍道湖・大山圏域の都市機能の拠点性強化

「中海・宍道湖8の字ルート整備」
×「2つの湖の上空・海上の活用」

■ 中海・宍道湖・大山圏域と中山間地域等との接続性強化

東西「山陰道・山陰本線等の交通基盤」
×南北「河川空間の新たな活用」

マルチモーダル
交通拠点を主要
地点に整備し次
世代モビリティ
でつなぐ



3. 実行方策(1)

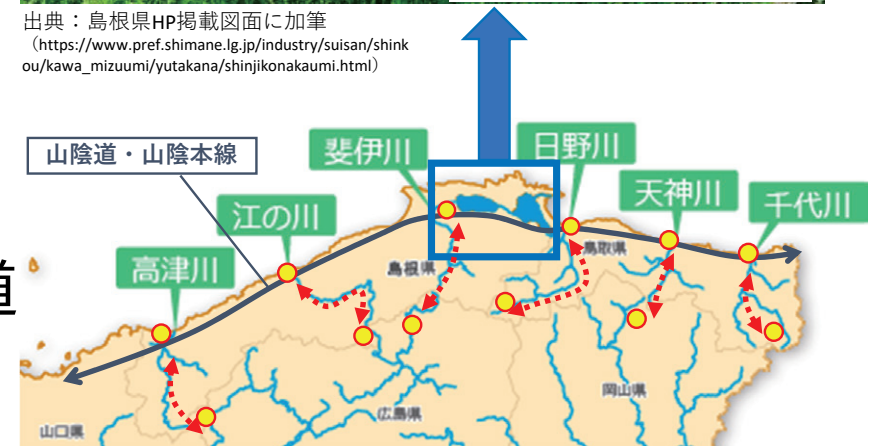
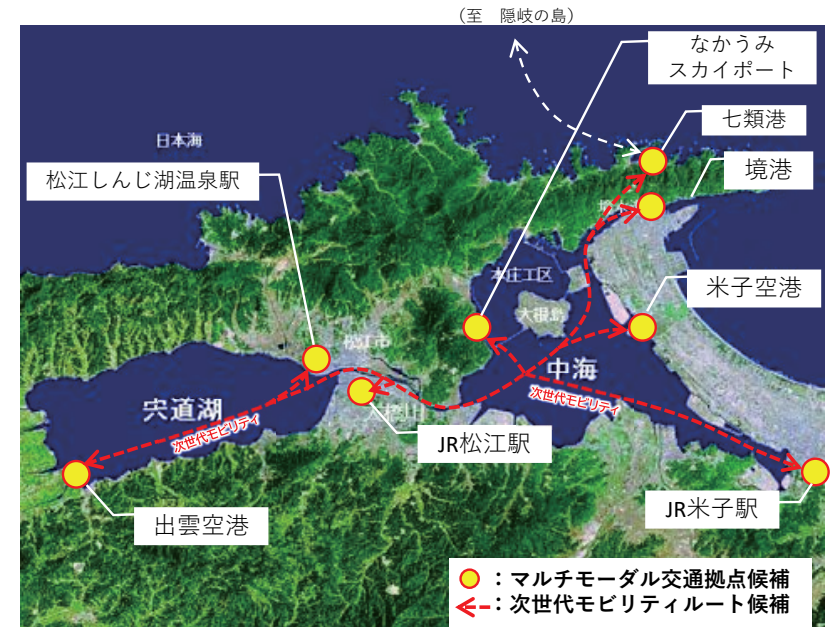
マルチモーダル交通拠点の整備

【都市機能の拠点性強化：中海・宍道湖・大山圏域】

- 主な交通拠点等を陸・水(港・湖・河川)・空の立体的交通拠点(乗降＋乗り換え)として機能拡張整備。

【接続性強化：日本海沿岸～中山間】

- 東西軸の山陰道・山陰本線と南北軸の1級河川との交差部や中山間部の小さな拠点に陸・空の交通拠点(乗降＋乗り換え)を新設あるいはリニューアル整備(道の駅や川の駅等も活用)。



3. 実行方策(2)

次世代モビリティの導入

【都市機能の拠点性強化：中海・宍道湖・大山圏域】

- ラムサール条約に配慮したゼロエミッション、低騒音・低波浪型水上モビリティの導入
- 湖上空を横断可能な空飛ぶクルマ・ドローン物流の導入。

【接続性強化：日本海沿岸～中山間】

- 中山間地域と都市部を南北に結ぶ6つの一級河川上空を活用した空飛ぶクルマ・ドローン物流の導入。
- 高速道路等を活用した自動物流の構築。



ゼロエミッション、低騒音型、低波浪型の水上モビリティのイメージ
出典：ツネイシホールディングスHP



空飛ぶクルマのイメージ
出典：EXPO2025HP



(出典：ANA ホールディングス (株))
回転翼型 (マルチコプター)



(出典：KDDI スマートドローン (株))
回転翼型 (シングルローター)



(出典：Zipline International Inc.)
固定翼型



(出典：エアロセンス (株))
VTOL 型

ドローン物流のイメージ
出典：ドローンを活用した荷物等配送に関するガイドラインVer4.0 (2023年3月, 国土交通省)

3. 実行方策(3)

文化・芸術による拠点性の構築

【美しい自然・景観を活かした文化拠点の創出】

- 宍道湖の静かな水面を活かし、湖上ステージでの定期的な文化イベントを実施
- 広大な自然を背景に、内外から人を呼び込む国際的な芸術祭の開催
- 既存の文化・芸術拠点を最大活用、更には拠点となる文化施設の設置

【拠点と連動した地域での文化活動強化】

- 周辺の小都市でも、拠点のメインイベントとタイアップした文化・芸術活動を開催し、賑わいを創出

美しい宍道湖畔に面する島根県立美術館



出典：島根県立美術館HP

松江水郷祭 花火大会

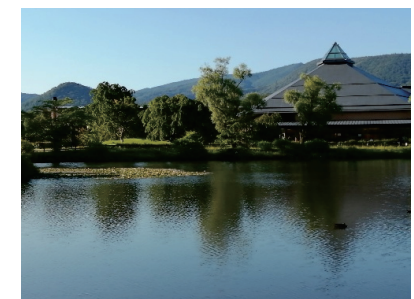


出典：島根観光連盟HP

欧州の音楽祭（オーストリア）



文化・芸術拠点（軽井沢大賀ホール）



3. 実行方策(4)

導入に向けた支援組織の設立と実証実験の実施

■ 既存組織を核に外部機関等と連携した支援組織の設立

- ・ 中海・宍道湖8の字ルート整備をトリガーとして、拠点性強化と接続性強化が推進されるよう、既存の中海・宍道湖・大山圏域市長会や中海・宍道湖・大山圏域の経済団体に加え、**地元大学や外部の研究機関や民間団体(モビリティメーカー)等と議論・研究する枠組みを設置。**

■ モビリティ導入計画の立案と実証実験の実施

- ・ 上記組織が中心となり、小さな拠点づくりと整合したマルチモーダル交通拠点(モビリティハブ)の整備・導入計画を立案する。
- ・ 河川上空の活用についても、空飛ぶクルマの実装を念頭に、例えば、**行政団体や地域企業等が連携して、実験地としての環境整備やメーカーへの働きかけを行う。**

4. プロジェクトの効果

■ 観光客向け周遊価値の提供

- ・ 陸上・水上・上空を組み合わせた山陰ならではの**新たな周遊ルートや観光体験**を創出。

■ 医療・福祉サービスの効率性・持続性の向上

- ・ 東西に長い地域に対して限られた拠点やヒトにより**効率的かつ持続的な医療・福祉サービスを提供**。

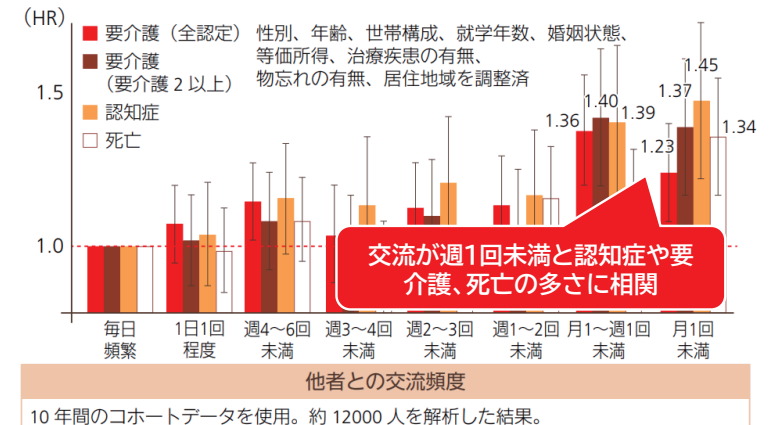
■ 交流促進・文化・芸術活動により生活の質が向上

- ・ **対面での交流機会や社会参加が拡大、身近な文化・芸術活動が活発化。健康寿命も延伸。**

■ 山陰の経済産業の発展と人口流出を抑制

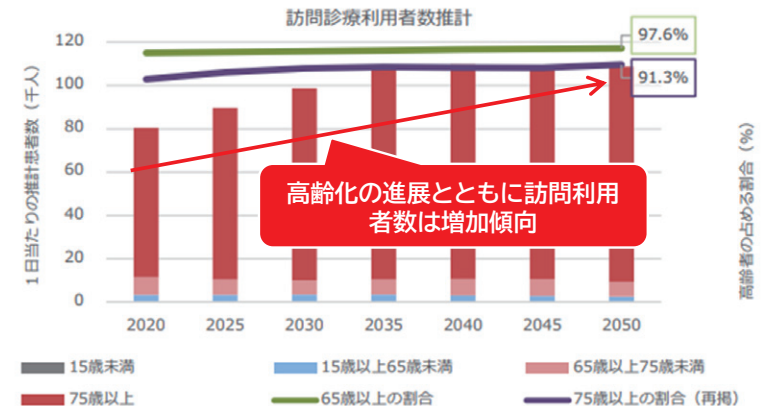
- ・ 災害時にも複数の移動手段が確保され、居住や産業立地の**安心感が向上**。
- ・ 都市機能が維持・強化され、**雇用の確保や人口の流出を抑制**。

■ 同居者以外の他者との交流頻度と健康指標との関連



斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか（2015）日本公衆衛生雑誌。62（3）より

■ 訪問診療利用者数の推移



出典：第10回新たな地域医療構想等に関する検討会（厚生労働省）

円滑な移動を支える都市交通の再整備

【円滑な移動を支える都市交通の再整備】 ～米子・境線LRT化構想～

1-1. 現状と課題

米子地域：山陰の陸・海・空の玄関口

- 交通機能を高めるとともに、山陰への受け入れ・拠点機能を強化



【円滑な移動を支える都市交通の再整備】 ～ 米子・境線LRT化構想～

1-2. 提言

境線:米子の広域交通機能を連絡しているが、単線非電化で本数が少ない

- 境線の近代化・LRT化により利便性を高め、米子の拠点性を高める



【円滑な移動を支える都市交通の再整備】 ～ 米子・境線LRT化構想～

1-2. 提言

- 米子市街地内に単線・一方通行の路面区間新設し、境線と接続することで環状線化を実施。

(ルートは米子駅⇒富士見町駅を想定も、市街地道路空間整備も見据えながら、更なる検討が必要)

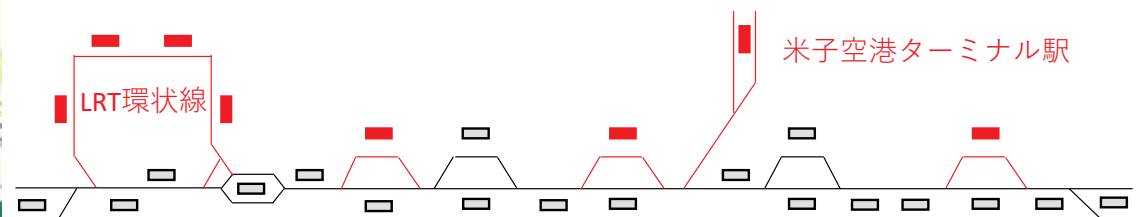


【円滑な移動を支える都市交通の再整備】 ～ 米子・境線LRT化構想～

1-3. 実行方策



- 非電化の境線現況を考慮し、架線レストラム(駅で充電:高雄トラム等)またはディーゼルトラム(カッセル等)を導入
- 交換施設の新設を実施し、15～20分間隔への増発を考慮した配線形式とし、編成あたり輸送力減少に対応
- 米子市街地では環状線を整備し、一方通行でループ運行を行う環状区間の循環運転も可能な配線形式とし、米子市街地の回遊性向上を目指す
- 米子空港ターミナルへの直接乗り入れを行い、米子空港のアクセス性向上を実施 空港直通の快速列車等の運転も一考
- 米子クルーズターミナルへバス等による接続を実施
- 2期区間として、皆生温泉方面への延伸を考慮



【円滑な移動を支える都市交通の再整備】

～ 松江市武家屋敷地域道路空間再整備～

2-1. 現状と課題

- 武家屋敷地域(塩見縄手)は、歴史的な街並み・松江城濠の景観・小泉八雲記念館等の豊富な観光資源を有しており、松江市内の中でも有数の観光地。
- 一方、武家屋敷に面した道路は松江城北部における数少ない自動車動線。通過交通が狭い道路幅員に集中し、自動車交通と観光客との輻輳が発生。
- 松江城濠の水辺が道路脇に存在するものの、濠の水辺に親しむことのできる空間にはなっていない他、車道及び法面との間に柵等が無く、安全上の不安あり。



武家屋敷地域の現況

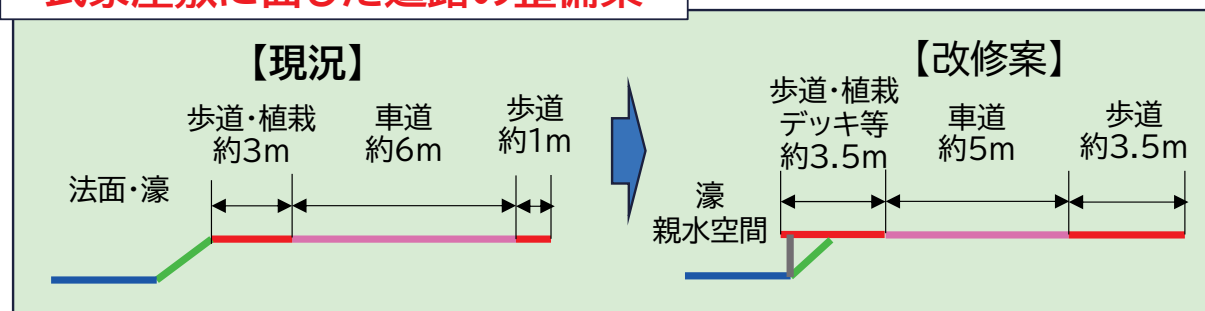
【円滑な移動を支える都市交通の再整備】

～ 松江市武家屋敷地域道路空間再整備 ～

2-2. 提言

- 道路空間の再整備により、自動車交通の速度抑制と併せて、濠空間の活用を含む歩行者空間の整備を行い、周辺景観に適合した道路景観の創出により魅力向上を図る。

武家屋敷に面した道路の整備案



道路空間の再整備例（出雲市・神門通り）



出典：島根県

道路・濠空間の再整備例（静岡市・追手町音羽町通り）



出典：静岡市

道路空間の再整備例（松山市・ロープウェイ通り）



出典：国交省

【円滑な移動を支える都市交通の再整備】

～ 松江市武家屋敷地域道路空間再整備～

2-3. 実行方策

- 休日については、一方通行化またはトランジットモール化等により、住民の利便性を確保しつつ自動車流入を抑制する対策を実施。
- 併せて、観光用バス路線である松江レイクラインの機能強化や、市内の堀川を活用した水上交通の整備により、地域住民の利便を図るとともに、観光客による市内回遊行動の促進を図る。
- 既存道路への自動車交通集中への影響が課題であり、松江城北部における道路改良・整備を併せて推進することが望ましい。

松江レイクライン運行ルート図



休日における歩行者天国実施事例（川越市・一番街）



出典：川越市

道路空間の再整備例（大田区・さかさ川通り）



出典：国交省

道路空間の再整備事例（鳥取市鹿野町）



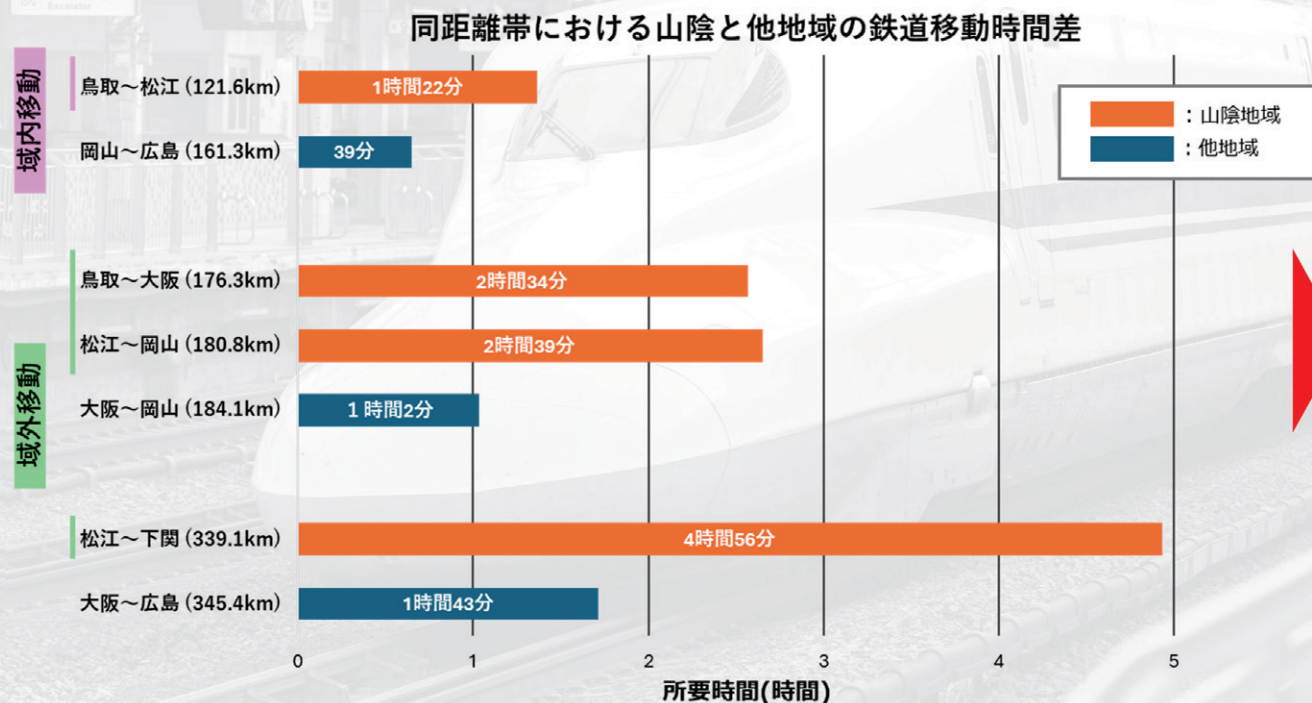
出典：道路空間委員会

提言プロジェクト ⑦

山陰地方の発展を支える広域幹線交通の強化

1. 現状と課題

- 山陰地域内(2県主要都市間)、及び域外(関西、瀬戸内、山口県)への時間距離が、他地域に比して格段に長い。
- ・2県都市間及び域外への所要時間が**2倍以上**(同一距離での比較)
- ・移動手段の選択肢が少ないため**都市間鉄道の競争力がない**



新幹線のある地域に比べ
時間距離が**圧倒的に長い**

1. 現状と課題

■ 東西に長い域内移動の高速化の推進

- ・域内での住民の交流機会拡大
(持続可能な地域づくり、
域内連携強化、山陰圏の形成)
- ・豊富にある観光資源の連携
(鳥取砂丘、石見銀山、出雲大社、
城跡、温泉等)



■ 域外との高速移動手段の確保

- ・地域住民に、域内に欠ける医療・教育・文化・スポーツ・レジャー等機会を拡大
- ・ワーケーション、長期滞在型旅行、スローライフ等、多様で新しい生活、労働、観光の実現

■ 災害等の有事への備え・連携、迂回路・リダンダンシーの確保

- ・山陰地域有事の際の移動、近隣地域有事の際の受け入れ
- ・南海トラフ地震、台風等災害時の、山陽新幹線バックアップルート確保

2. 提言

■ 域内外の高速移動実現に向けた、高速鉄道の適切な整備手法・ルートの検討、及び地域でのコンセンサス確立

- ・高規格道路については、域内外でミッシングリンクは解消、四車線化の早期整備が期待される。
- ・高速鉄道については、基本計画路線である「山陰新幹線」「中国横断新幹線」の整備が課題。
- ・高速鉄道建設促進に向けた「期成同盟会」が複数設立され、活動しているものの、多様な動きがあり、コンセンサスが確立されていない。

国土交通省資料より該当エリア抜粋



→高速鉄道整備に向けては、「整備ルート」に応じた適切な「整備手法」を検討し、段階的整備も念頭におきながら、事業費、工期等から評価を開始することが必要。

(検討の前提) 鉄道高速化の整備メニュー

- 当地区での整備メニューとしては、①スーパー特急、②ミニ新幹線、③単線新幹線 のいずれかが想定される。
- 既設線が活用(線形が良い等)される区間はミニ新幹線が有利。既設線の評定速度が低い場合は、単線新幹線がより有利。

鉄道高速化の整備メニュー

	①スーパー特急	②ミニ新幹線	③単線新幹線
法的位置づけ	新幹線鉄道	在来線	新幹線鉄道
軌間	1,067mm	1,435mm	1,435mm
電化方式	直流	直流または交流	交流
設計速度	200Km/h	130Km/h	260Km/h
最小曲線半径	2,000m	600m	4,000m
最急勾配	15‰	35‰	15‰
トンネル(複線)	幅員13m	幅員10m	幅員約9m

(参考)

在来線	整備新幹線
在来線	新幹線鉄道
1,067mm	1,435mm
直流	交流
130km/h	260Km/h
600m	4,000m
35‰	15‰
幅員10m	幅員13m

(検討の前提) 基本計画路線

- 「山陰新幹線」は、大阪市～鳥取市～松江市～下関市
大阪～鳥取間は、1.山陰本線ルート、2.福知山線ルート、3.智頭急行ルート、
4.小浜線ルート の主に4つが議論されている。
- 「中国横断新幹線」は、岡山市～松江市 を結ぶ。



3. ルート×整備メニューのアイデア(1)

【山陰新幹線：①大阪～鳥取間】

項目	山陰新幹線 ①大阪～鳥取間			
ルート名	①-1 山陰本線ルート	①-2 福知山線ルート	①-3 智頭急行線ルート	①-4 小浜線ルート
概算距離	約220～230km	約200～210km	約190～200km	約280～290km
既存インフラ状況	・線形悪く大規模改良必要 ・電化済区間： 大阪～城崎温泉	・線形悪く大規模改良必要 ・電化済区間： 大阪～城崎温泉	・高速運転実績あり ・線形良好 ・電化済区間：大阪～上郡	・線形悪く大規模改良必要 ・電化済区間： 大阪～城崎温泉
整備手法のアイデア	ミニ新幹線 +部分的に単線新幹線	ミニ新幹線 +部分的に単線新幹線	電化・ミニ新幹線化 (山陽新幹線直通)	在来線高速化 +部分的に単線新幹線
関西圏との直通性	京都経由だが 大阪へやや遠回り	大阪へほぼ 最短距離で接続	大阪へ最短距離 で接続	大阪・京都へ 遠回りとなる
総合コメント	・従来のJR在来線ルートを踏襲。合意形成が図りやすい。 ・延長が長く事業費が大きい。速達効果が低いため費用対効果が小さい。	・現在の在来線特急メインルートを踏襲。合意形成が図りやすい。 ・北近畿・但馬地方も、広域利便性向上に有用。 ・既存の在来線特急ネットワークの再編・連携が課題。	・既存インフラの高速性が高くミニ新幹線化が有効 ・既存トンネル断面の対応のため交流電化が困難。交直流車両開発が必要となる可能性が高い。	・関西を経由しない北陸～山陰間ルートを形成し、リダンダンシーに貢献。 ・山陰と関西等の速達効果が低く、延長が長いいため費用対効果が小さい。 ・物流機能代替ルートの検討価値あり。

3. ルート×整備メニューのアイデア(2)

【山陰新幹線： ②鳥取～松江間、③松江～下関間】

【中国横断新幹線： ④岡山～松江間】

項目	山陰新幹線		中国横断新幹線
区間	②鳥取～松江間	③松江～下関間	④岡山～松江間
概算距離	約110～120km	約270～280km	約150～160km
既存インフラ状況	・線形は比較的良好 ・電化済区間：米子～松江	・区間によっては線形悪く 大規模改良必要 ・電化済区間：松江～西出雲	・線形悪く大規模改良必要 ・電化済区間：全線
整備手法のアイデア	ミニ新幹線 +部分的に単線新幹線	在来線改良 またはミニ新幹線	単線新幹線 (山陽新幹線直通)
関西圏との直通性	大阪～鳥取間と併せた整備で、 松江と関西圏が直通	大阪～松江間と併せた整備で、 島根県全域と関西圏が直通	岡山を經由して松江と関西圏 が直通
総合コメント	・山陰地域の中心的な直結。山陰地域内の流動の活性化、一体化が期待できる。 ・単独では関西圏等の他の圏域との高速化効果は限定的。①または④との一体整備に期待。	・整備候補区間の中で最も人口が希薄。事業効果が低い。 ・インフラ整備の遅れている島根県東部の開発による山陰地域の均衡ある発展を期待。 ・山陰新幹線の全通により、リダンダンシーに寄与。	・中海・宍道湖・大山圏域と関西圏との速達化が可能。 ・単線新幹線整備の費用対効果が大きい。 ・単独整備では、鳥取・倉吉に整備効果が波及しない ・四国新幹線と連携し、岡山の拠点性強化の効果あり。

4. プロジェクトの効果

(1) 地域内の生活における豊かなスローライフの実現

- ・多様な住み方、働き方の確保（通勤、医療、教育、文化）
- ・域内居住者の出会い・交流機会、産業基盤の確保

(2) 地域外とのアクセス性に富むスローライフの形成

- ・誘客による地域関係人口の拡大、将来的な地域の担い手となる人材の確保
- ・地域内生活者の機会拡大（医療、教育、文化）
- ・貨物、物流ネットワークの向上

(3) 日本全土におけるリダンダンシー確保

- ・南海トラフ地震発生時のバックアップルート確保
- ・山陽新幹線ルート of 代替路確保

JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
山陰ブロック総合開発ワーキンググループ

(敬称略 50音順)

委員

池端 文哉	パシフィックコンサルタンツ(株)
◎ 井上 聡史	前 政策研究大学院大学
大内 雅博	高知工科大学
大賀 惇平	パシフィックコンサルタンツ(株)
小池 淳司	神戸大学
佐藤 啓輔	復建調査設計(株)
○ 白水 靖郎	中央復建コンサルタンツ(株)
中井 祐	東京大学
中原 正人	中央復建コンサルタンツ(株)
干野 一騎	中央復建コンサルタンツ(株)
藤本 貴也	パシフィックコンサルタンツ(株) (JAPIC国土・未来プロジェクト研究会委員長)
森山 誠二	(公財)日本道路交通情報センター
柳川 篤志	中央復建コンサルタンツ(株)
山根 啓典	復建調査設計(株)
吉川 正嗣	(株)建設技術研究所

事務局

小石川 隆太	(一社)日本プロジェクト産業協議会
南光 繁	//
林田 康洋	//
丸川 裕之	//

(◎WG長、○サブWG長)

地方開発プロジェクト計画 5
～SDGs 時代の新たな地方活性化に向けて～

【山陰ブロック】

豊かなスローライフを目指した地域づくり
～分散・連携による山陰地域総合開発計画～

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

発 行 2026 年 9 月 1 日

発 行 所 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会
〒 103-0025
東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 6F

編集・印刷 株式会社 大應

©Japan Project-Industry Council 2026, Printed In Japan

